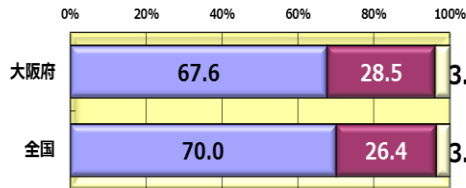


平均正答率は67.6%であり、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる

正答率比較

小学校国語A区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



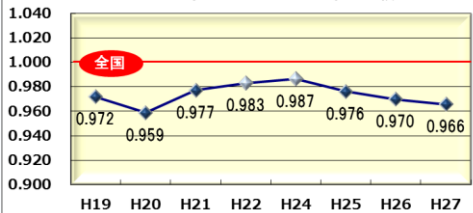
平均正答率は全国を2.4ポイント下回った

◆全国の平均正答率が70.0%であるのに対し、大阪府の平均正答率は67.6%であり、2.4ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成27年度は0.966となり、昨年度の0.970を下回った。

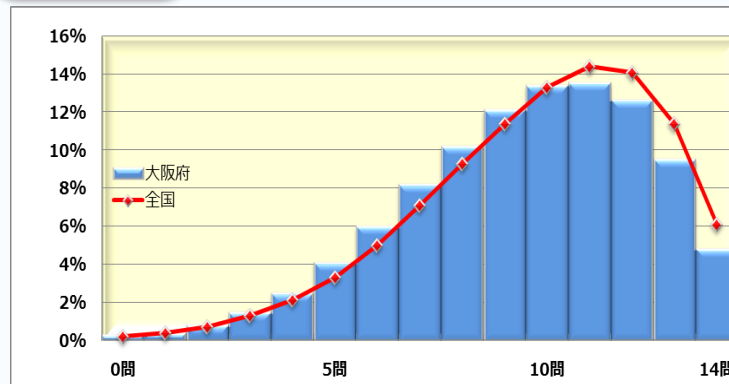
小学校国語A区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◇漢字を読むことは、相当数の児童ができています。(文章中の漢字「招く」、「信念」、「承知」の読みをひらがなで書く)
- ◇説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて書くことは、相当数の児童ができています。(説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する)
- ◆文の中における主語を捉えることに課題がある。(文の主語として適切なものを選択する)
- ◆話の内容に対する聞き方を工夫することに課題がある。(聞き方の説明として適切なものを選択する)
- ◆新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉えて読むことに課題がある。(コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜いたり、目的に応じて読むべき段落を選択する)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

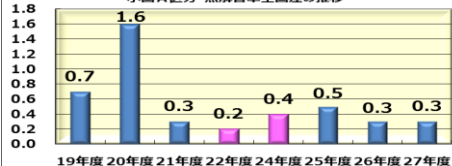
- ◆全国、大阪府とも11問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府の正答数分布の割合は、0～10問では全国より高く、11～14問では全国よりも低い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.3ポイント上回った

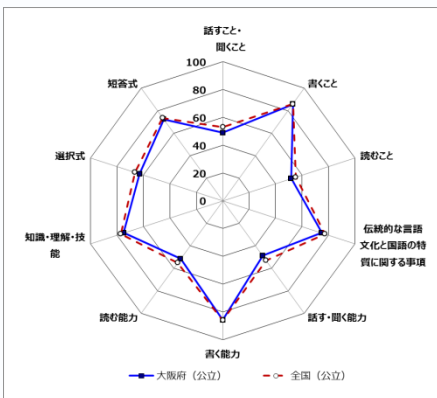
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成20年度は1.6ポイントの差があったが、平成21年度からは0.5ポイント以下の差になっている。今年度は昨年度と同じく全国との差は0.3ポイントである。

小国A区分・無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別

平成27年度 レーダーチャート

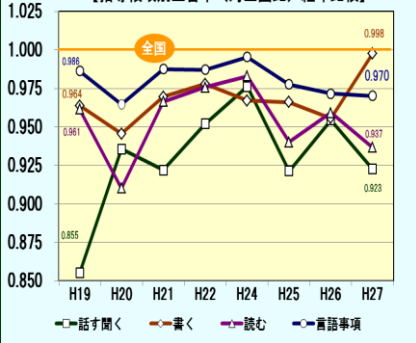


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

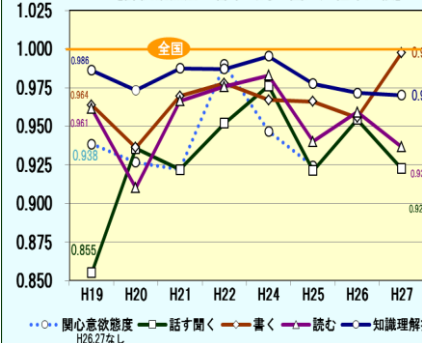
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「話すこと・聞くこと」「読むこと」「話す・聞く能力」「読む能力」で低い値を示している。

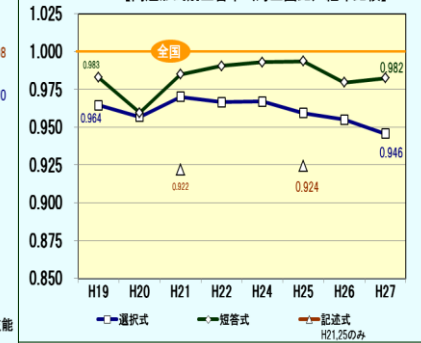
【指導領域別正答率 (対全国比) 経年比較】



【評価観点別正答率 (対全国比) 経年比較】



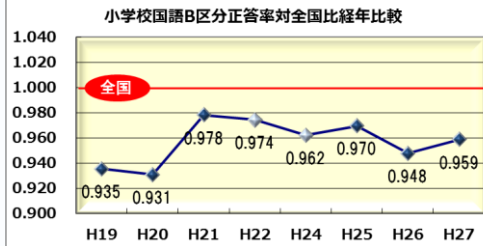
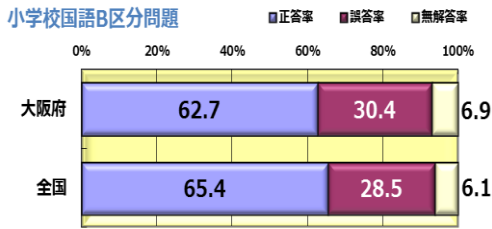
【問題形式別正答率 (対全国比) 経年比較】



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は62.7%であり、目的や意図に応じて、聞き方を工夫したり、伝えたいことが読み手に伝わるように引用や内容の整理をして書いたりするなどの言語活動を取入れた指導の充実が求められる

正答率比較



平均正答率は全国を2.7ポイント下回った

◆全国の平均正答率が65.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は62.7%であり、2.7ポイント全国を下回った。

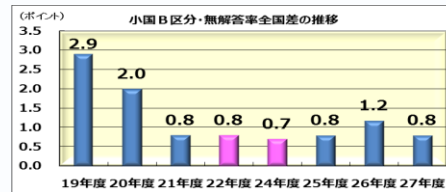
対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成24年度を除き、平成21年度から平成26年度まで減少傾向にあったが、今年度は0.959であり、昨年度の0.948を上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.8ポイント上回った

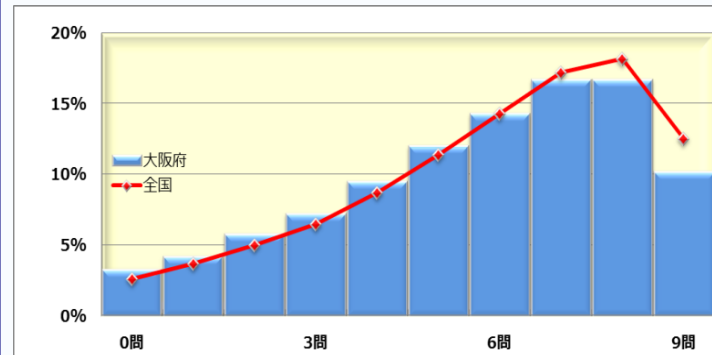
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は2.9ポイント、平成20年度は2.0ポイント上回っていたのに対し、平成21年度からの4年間は、0.7~0.8ポイントの差であった。昨年度1.2ポイントとなり全国との差がやや広がったが、今年度は、0.8ポイントとなり、昨年度より差が縮まった。



具体的な課題等

- ◆目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。(インタビューの様子の内容をまとめて書く)
- ◆文章と図とを関係付けて読み、目的に応じて文章の言葉を適切に引用し、自分の考えを書くことに課題がある。(楽器の分担の決め方について、図を基にして書く)
- ◆登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えて読むことに課題がある。(物語のある場面が始まるままとりとして適切なものを選択する)
- ◆登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫を考えることに課題がある。(文章を声に出して読むときの工夫とその理由を書く)

正答数分布

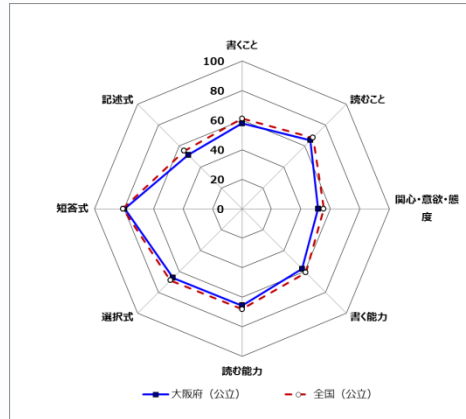


正答数分布の様子は全国と同傾向

- ◆全国、大阪府とも8問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府の正答数分布の割合は、0~5問の間では全国より高く、7~9問では全国より低い。

領域・観点・問題形式別

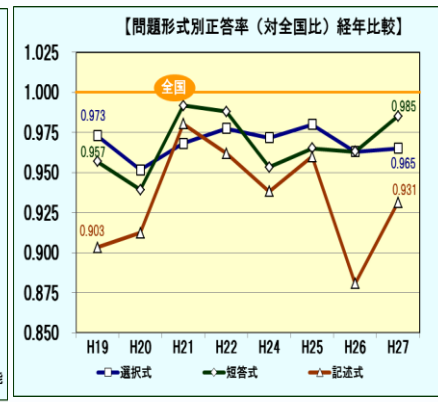
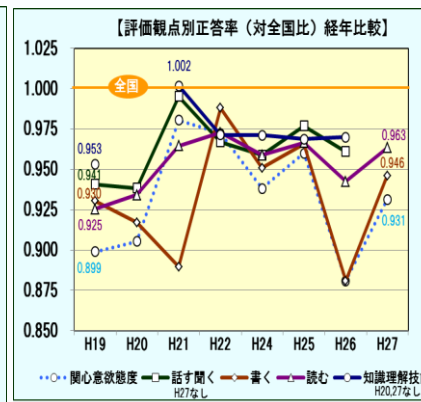
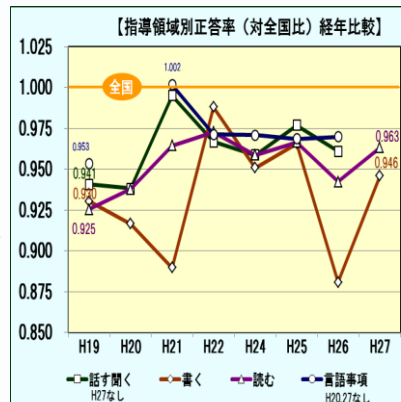
平成27年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書く能力」「読む能力」「記述式」で低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

小学校算数

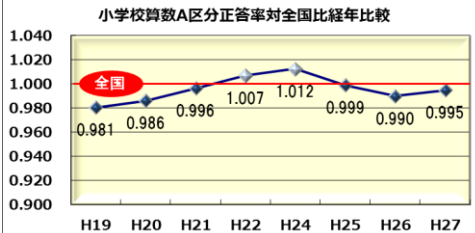
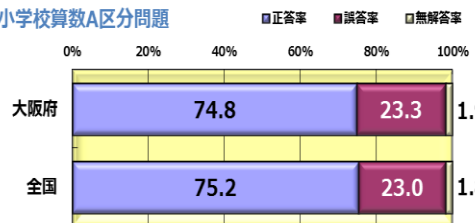
A

区分問題 (主に「知識」に関する問題)

平均正答率は74.8%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある

正答率比較

小学校算数A区分問題



平均正答率は全国を0.4ポイント下回った

◆全国の平均正答率が75.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は74.8%であり、0.4ポイント全国を下回った。

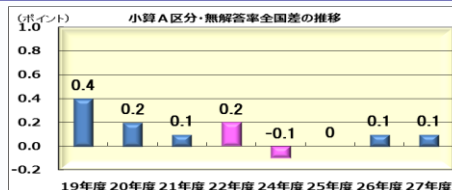
対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。7年間の推移を見てみると平成19年度から平成24年度まで増加傾向にあったが、平成25年度からは減少していた。しかし、今年度は昨年度を上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.1ポイント上回った

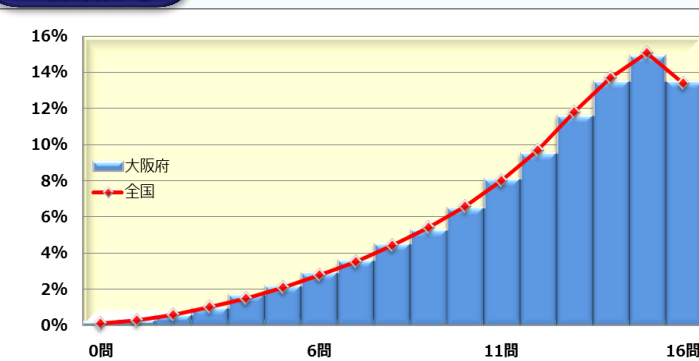
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度から減少傾向にあり、平成24年度は0.1ポイント全国を下回る結果になった。今年度は、昨年度と同じく全国の状況を0.1ポイント上回った。



具体的な課題等

- ◇整数・分数の計算をすることは、相当数の児童ができています。(28+72, 5/6÷7)
- ◇式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することは、相当数の児童ができています。(○を並べた図を基に式を読み○を黒くぬる)
- ◆小数点をそろえて位ごとに計算することに課題がある。(6.79-0.8)
- ◆示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することに課題がある。(円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ)
- ◆分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることに課題がある。(分度器の目盛りを読み、180度よりも大きい角の大きさを求める)
- ◆見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を判断することに課題がある。(作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ)

正答数分布

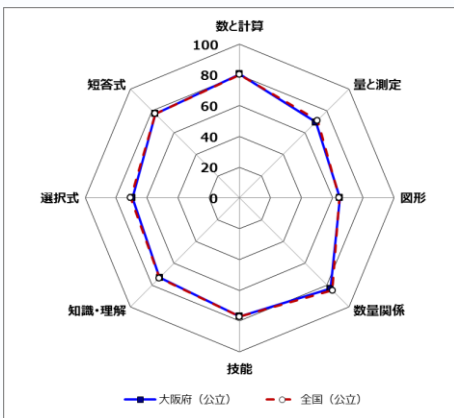


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも15問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府の正答数分布の割合は、全国とほぼ同じ傾向である。

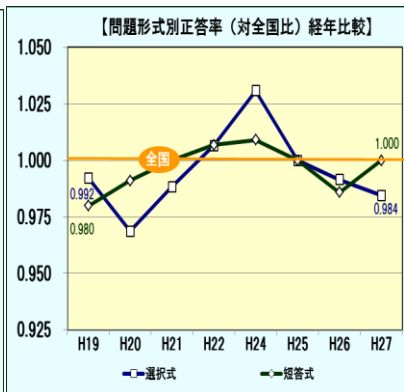
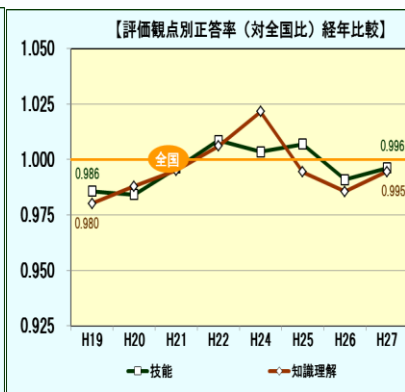
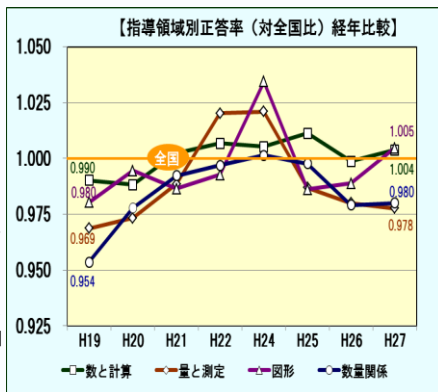
領域・観点・問題形式別

平成27年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- ◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- ◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「量と測定領域」「図形領域」「選択式」で低い値を示している。



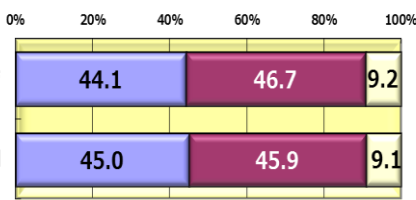
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は44.1%であり、基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえることや、判断した理由を記述することに課題がある。

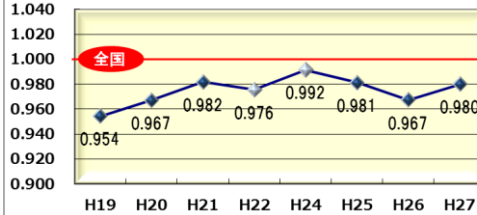
正答率比較

小学校算数B区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



小学校算数B区分正答率対全国比経年比較



平均正答率は全国を0.9ポイント下回った

◆全国の平均正答率が45.0%であるのに対し、大阪府の平均正答率は44.1%であり、0.9ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

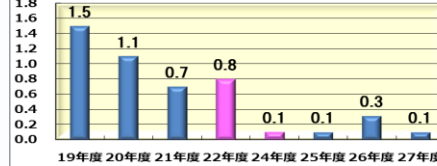
◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成19年度から平成24年度まで増加傾向にあったが、平成25年度からは減少していた。しかし、今年度は昨年度を上回っている。

無解答率比較

無解答率は全国との差を0.1ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、全国を上回った値は平成19年度は1.5ポイント、平成20年度は1.1ポイントあったものが、平成24年度からの4年間は0.1～0.3ポイントの差になっている。

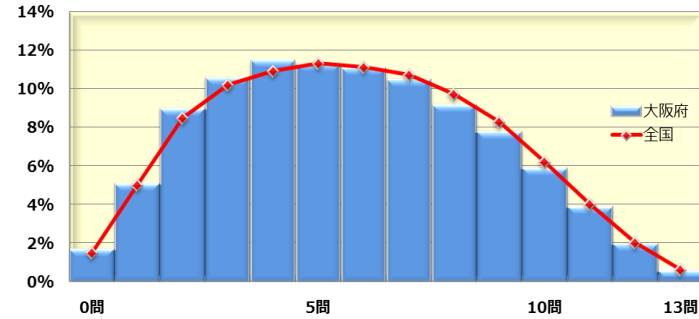
小算B区分・無解答率全国差の推移



具体的な課題等

- ◇平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは、相当数の児童ができていない。(平行四辺形を構成することができる四つの辺の組み合わせを選ぶ)
- ◆長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することに課題がある。(示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く)
- ◆正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることに課題がある。(周の長さが24mの正三角形を巻尺でつくるために、それぞれこの目盛りのところを持ってばよいかを書く)
- ◆概数を用いた見積もりの結果と、それに基づく判断を理解し、その理由を記述することに課題がある。(目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く)
- ◆示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。(20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く)

正答数分布

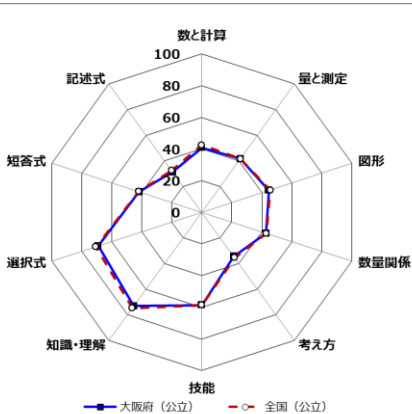


正答数分布の様子は全国と同傾向

- ◆全国は5問、大阪府は4問を頂点とした左よりの山型を描いている。
- ◆大阪府の正答数分布の割合は、全国とほぼ同じ傾向である。

領域・観点・問題形式別

平成27年度 レーダーチャート

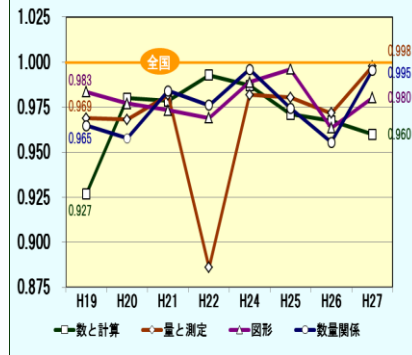


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

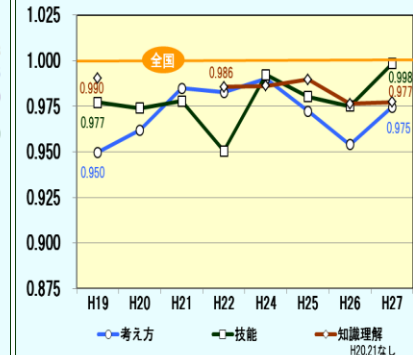
◆レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「考え方」「記述式」で特に低い値を示している。

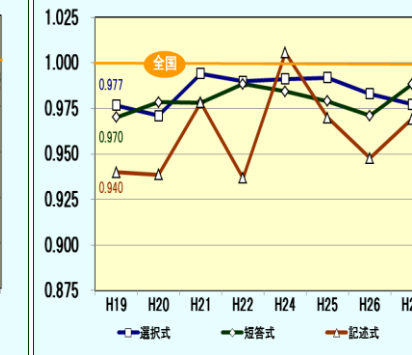
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



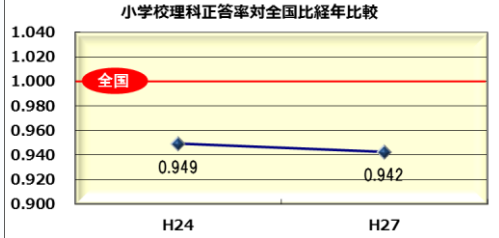
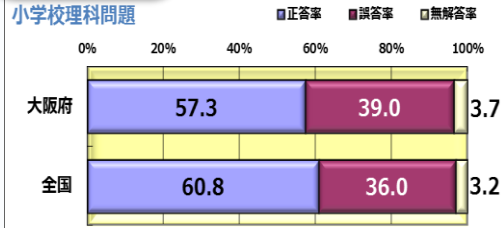
【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は57.3%であり、観察・実験器具の適切な操作技能に関する知識の定着に依然として課題があり、実験を構想したり、得られた結果から自分の考えを改善する学習活動の充実を図る必要がある

正答率比較



平均正答率は全国を3.5ポイント下回った

◆全国の平均正答率が60.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は57.3%であり、3.5ポイント全国を下回った。

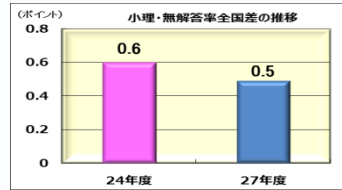
対全国比は平成24年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成24年度の前調査からの推移を見てみると減少している。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.5ポイント上回った

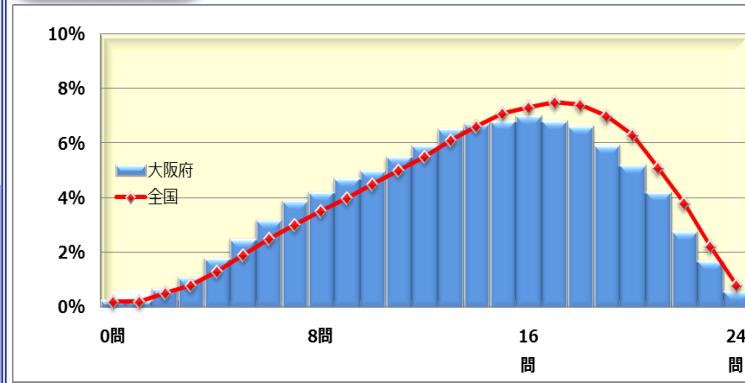
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度の前調査から減少し、今年度は全国の状況を0.5ポイント上回った。



具体的な課題等

- ◆グラフを基に考察して分析することに課題がある。(水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が上がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだだけを書く)
- ◆観察、実験の器具について、その名称や適切な操作技能に関する知識の定着に課題がある。(メスシリンダーの名称を書く・顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ)
- ◆植物の成長の様子と日光の当たり方を適用して考察することに課題がある。(インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだだけを書く)
- ◆科学的な言葉や概念の理解に課題がある。(水が水蒸気になる現象について、その名称を書く)

正答数分布



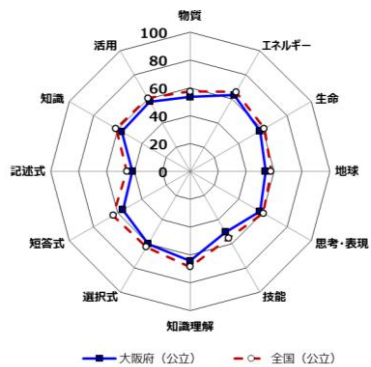
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国は17問、大阪府は16問を頂点とした右よりの山型を描いている。

◆大阪府の正答数分布の割合は、0～14問までは全国より高く、15～24問までは全国より低い。

領域・観点・問題形式別

平成27年度 レーダーチャート

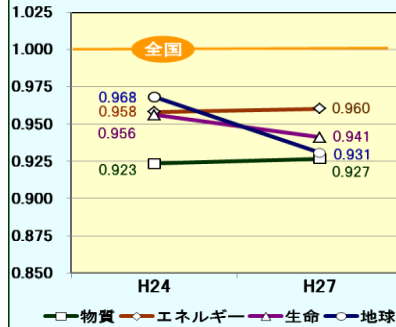


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

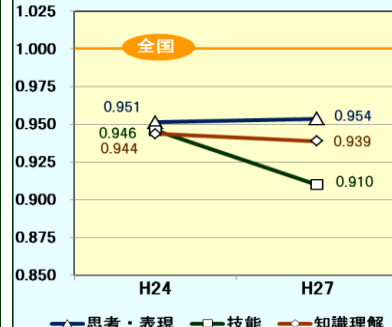
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況を少しずつ下回りながら同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「記述式」で低い値を示している。また、大阪府は「短答式」「技能」で全国より5.0ポイント以上低い値を示している。

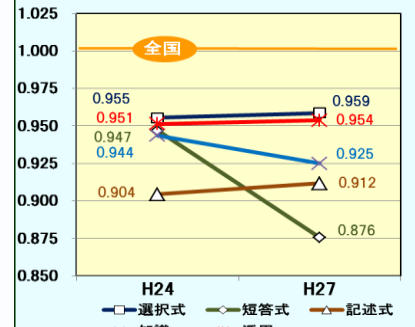
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



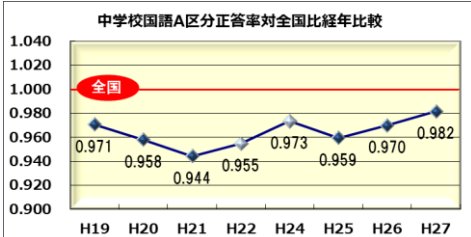
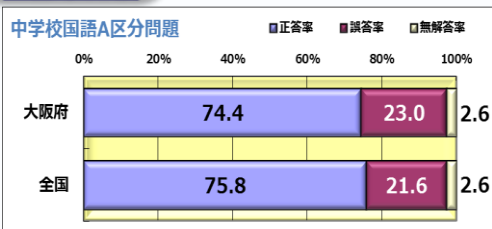
【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H27は悉皆調査、H24は抽出調査)

平均正答率は74.4%であり、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書いたり、話したりする指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を1.4ポイント下回った

◆全国の平均正答率が75.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は74.4%であり、1.4ポイント全国を下回った。

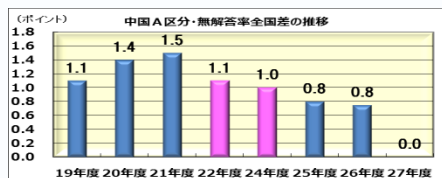
対全国比はゆるやかな増加傾向にある

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.982となり、悉皆調査だけで比較すると、平成21年度の0.944よりゆるやかな増加傾向にある。

無解答率比較

無解答率は全国の状況と同程度である

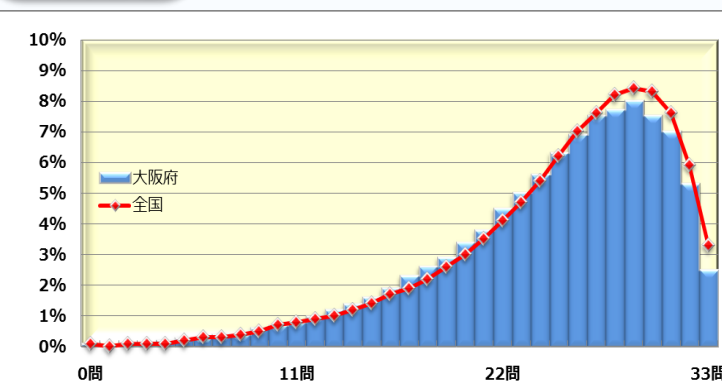
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成20年度は1.4ポイント、平成21年度は1.5ポイント上回っていた。しかし平成22年度以降、全国との差は縮まる傾向にあり、今年度は全国の状況と同程度となった。



具体的な課題等

- ◆登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することは、相当数の生徒ができています。(登場人物の行動の理由として適切なものを選択する)
- ◆聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話すことに課題がある。(抽象的な概念をあらわす語句を分かりやすい表現に直す)
- ◆伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに依然として課題がある。(要望の要点を適切に捉え、回答の冒頭に一文を加える)
- ◆手紙の書き方を理解して書くことに課題がある。(手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する)

正答数分布

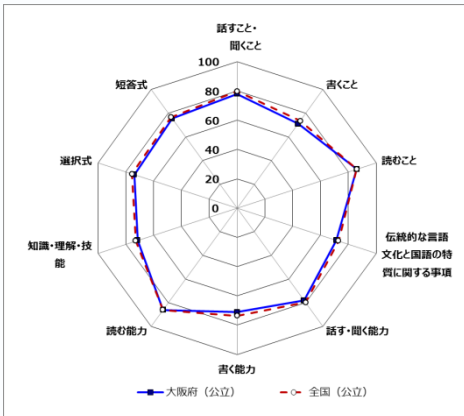


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも29問を頂点にした右よりのなだらかな山型を描いている。
- ◆大阪府の正答数分布の割合は、全国とほぼ同じ傾向である。

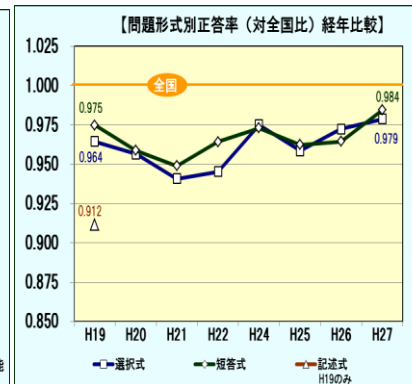
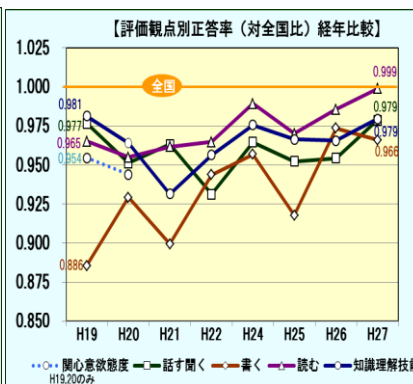
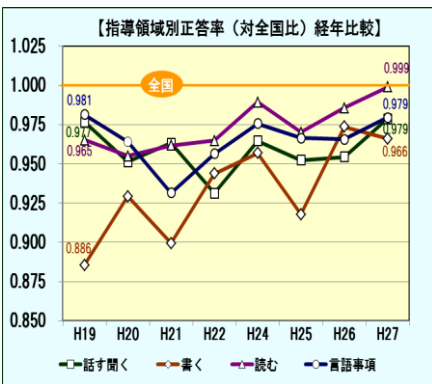
領域・観点・問題形式別

平成27年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

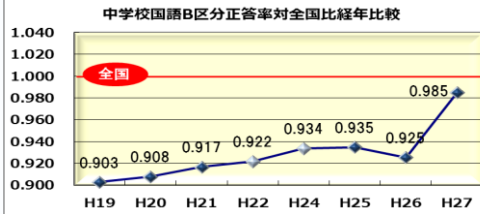
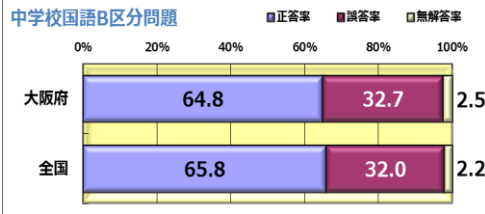
- ◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- ◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「書く能力」「選択式」で低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は64.8%であり、根拠を明確にして書く、資料から取り出した情報を基にして自分の考えをまとめる等に依然として課題がある。

正答率比較



平均正答率は全国を1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が65.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は64.8%であり、1ポイント全国を下回った。

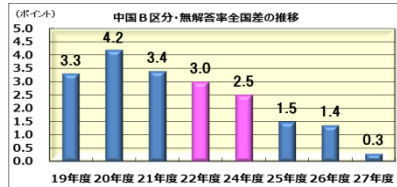
対全国比は増加傾向にある

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しいが、今年度は0.985となり、前年度を初めて下回った昨年度を除くと、対全国比は増加傾向にある。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.3ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成21年度から減少傾向にあり、平成26年度は1.4ポイント全国を上回っていた。今年度は0.3ポイントとなり、その差は小さくなった。



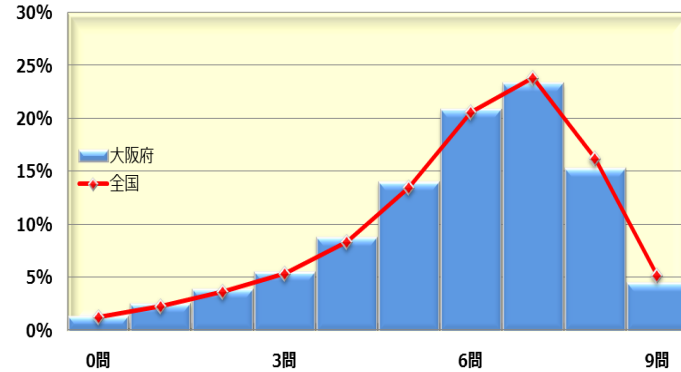
具体的な課題等

◇効果的な資料を作成し、活用して話すことは、相当数の生徒ができています。(フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切な問題を選択する)

◆複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことに依然として課題がある。(資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいのか、自分の考えを書く)

◆文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。(文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く)

正答数分布

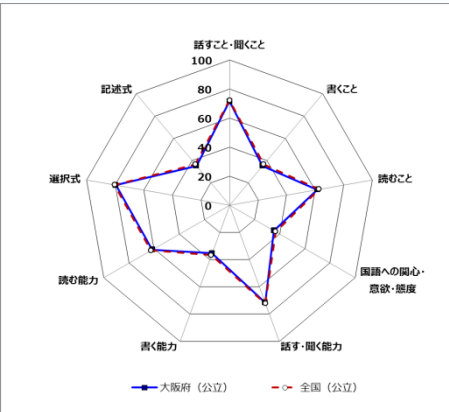


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国、大阪府とも7問を頂点とした右よりの山型を描いている。
◆大阪府の正答数分布の割合は、全国とほぼ同じ傾向である。

領域・観点・問題形式別

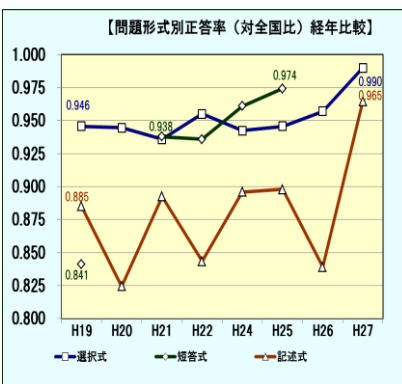
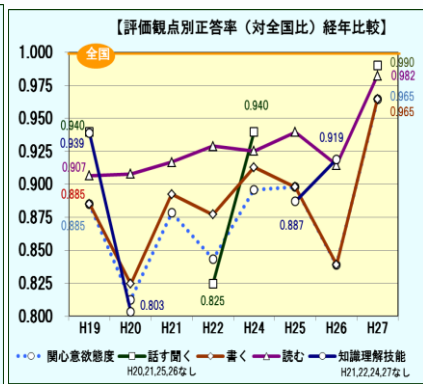
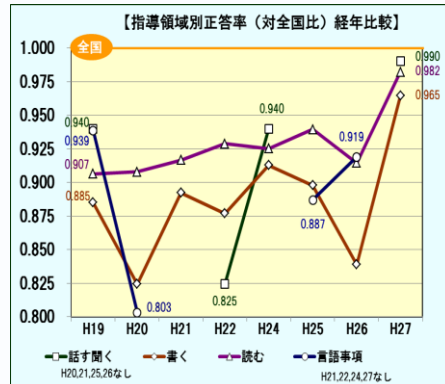
平成27年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」で低い値を示している。



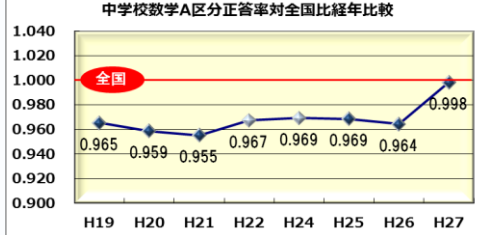
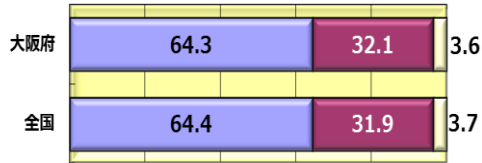
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は64.3%であり、全国の正答率に近づいたが、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある

正答率比較

中学校数学A区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



平均正答率は全国を0.1ポイント下回った

◆全国平均正答率が64.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は64.3%であり、0.1ポイント全国を下回った。

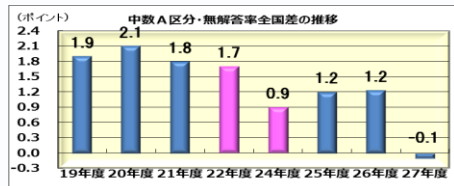
対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。8年間の推移を見てみると平成19年度から平成26年度まで大きな変化は見られなかったが、平成27年度は全国平均に近付いた。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.1ポイント下回った

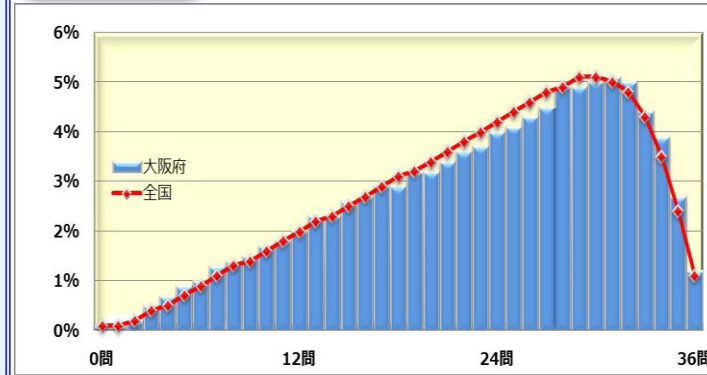
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19～22年度は1.7～2.1ポイントであるが、平成24年度からの3年間は0.9～1.3ポイントである。本年度は0.1ポイント全国を下回る結果になった。



具体的な課題等

- ◇一次式の減法の計算は、相当数の生徒ができていない。(5x-xを計算する)
- ◇時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることは、相当数の生徒ができていない。(時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから15分後にいる地点までの家からの道のりを求める)
- ◆数量の関係を文字式に表すことに課題がある。(赤いテープの長さがacmで、白いテープの長さの3/5倍のとき、白いテープの長さをaを用いた式で表す)
- ◆証明の必要性和意味の理解に課題がある。(対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ)
- ◆具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることに課題がある。(連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ)

正答数分布

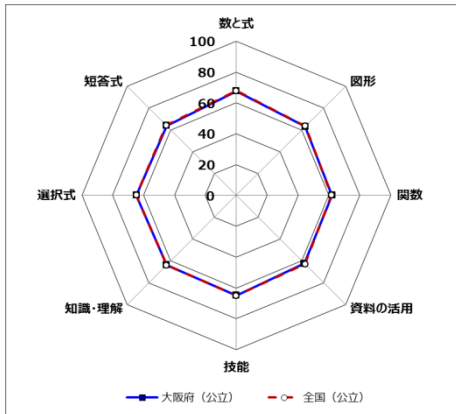


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国29,30問、大阪府は31問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は3問～10問、31問～36問の間では、全国よりも分布の割合が高い。

領域・観点・問題形式別

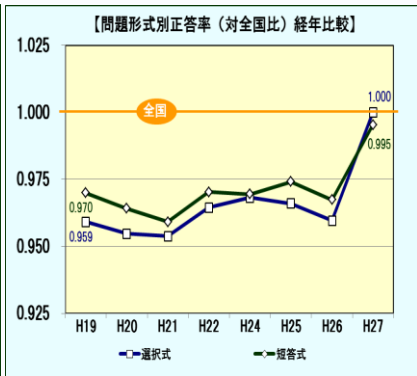
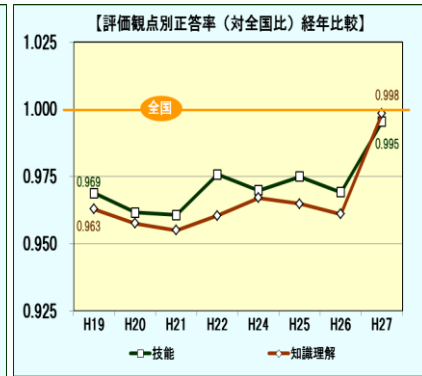
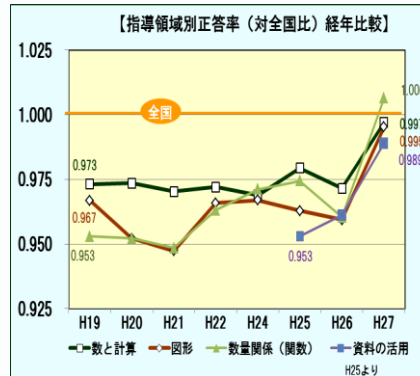
平成27年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と式」でやや高く、「関数」でやや低い値を示している。



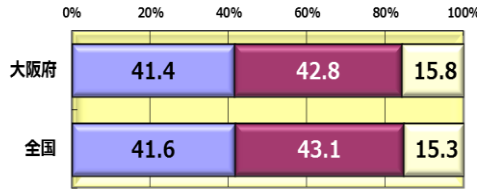
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は41.4%であり、数学的な表現を用いて理由を説明することや、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。

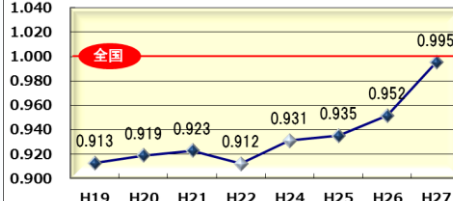
正答率比較

中学校数学B区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



中学校数学B区分正答率対全国比経年比較



平均正答率は全国を0.2ポイント下回った

◆全国の平均正答率が41.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は41.4%であり、0.2ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

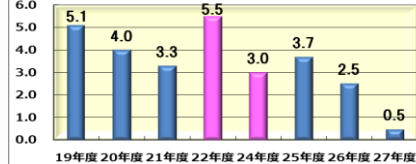
◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成22年度を除き、平成19年度からゆるやかな増加傾向にあったが、今年度は0.995で、全国平均に近付いた。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.5ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、昨年度まで2.5ポイント以上全国を上回っていたが、今年度は0.5ポイントであり、全国の状況に近づいた。

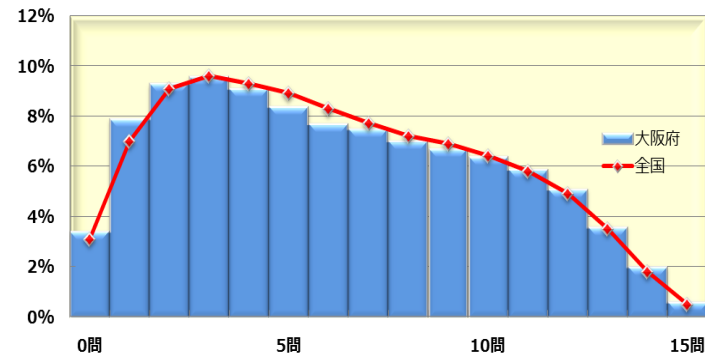
中数B区分・無解答率全国差の推移



具体的な課題等

- ◆事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(映像の明るさを2倍にするための投影画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する)
- ◆図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することに課題がある。(四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する)
- ◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する)
- ◆与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。(投影距離と投影画面の高さの関係を式で表す)

正答数分布

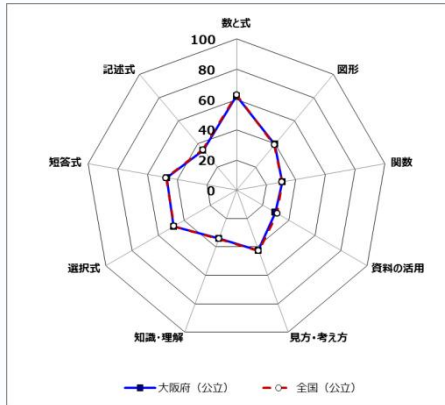


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも3問を頂点とした左よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0問～2問、11問～15問の間では、全国よりも分布の割合が高い。

領域・観点・問題形式別

平成27年度 レーダーチャート

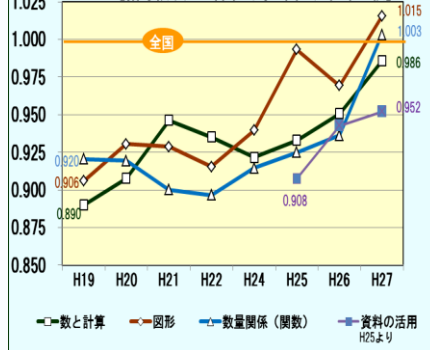


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

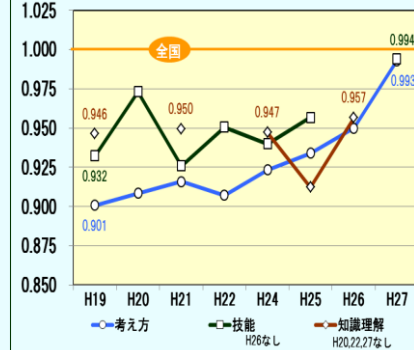
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と式」以外の項目で低い値を示している。

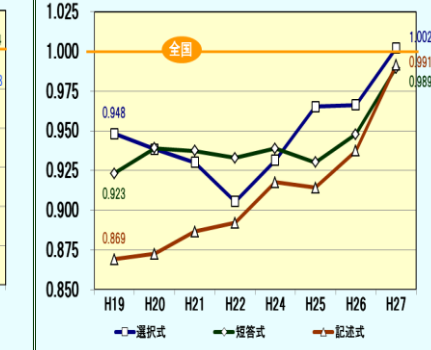
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



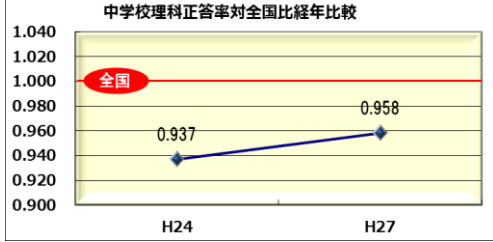
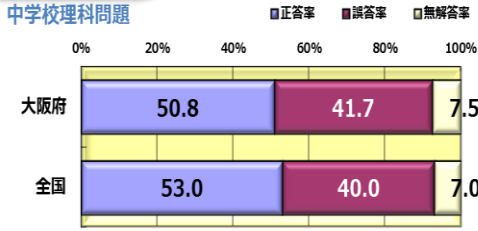
【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は50.8%であり、観察・実験の結果に基づいて自他の考えを検討し改善することや、実験を計画することに継続的な課題が見られる。

正答率比較



平均正答率は全国を2.2ポイント下回った

◆全国の平均正答率が53.0%であるのに対し、大阪府の平均正答率は50.8%であり、2.2ポイント全国を下回った。

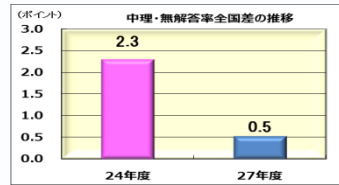
対全国比は平成24年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成24年度の前調査からの推移を見てみると増加している。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.5ポイント上回った

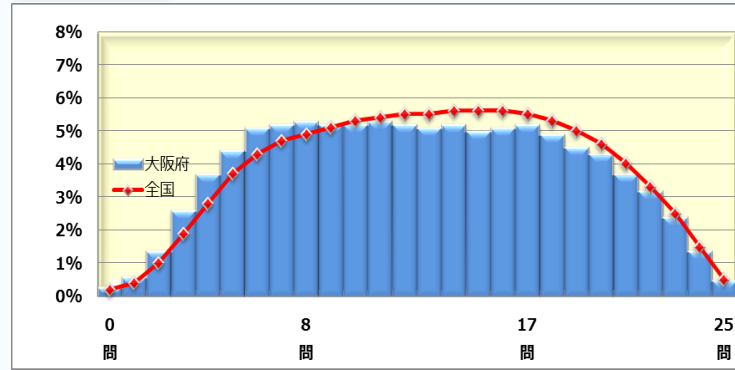
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度の前調査から減少し、今年度は全国の状況を0.5ポイント上回った。



具体的な課題等

- ◆基礎的・基本的な知識・技能を活用し、グラフ・資料などに基づいて自らの考えや他者の考えを検討して改善することに課題がある。(湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考察を検討して、誤っているところを改善する)
- ◆課題を解決するために、予想や仮説を立ててそれを検証する実験を計画することに課題がある。(音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ)
- ◆知識と実験の結果を関係付けて分析して解釈することに課題がある。(同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硝酸ナトリウムそれぞれを加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ)
- ◆日常生活の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題がある。(13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ)

正答数分布



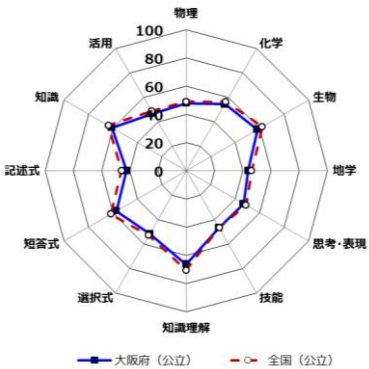
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国は14~16問、大阪府は8問を頂点とした緩やかな山型を描いている。

◆大阪府の正答数分布の割合は、0~9問で全国より高く、10~24問で全国より低い。

領域・観点・問題形式別

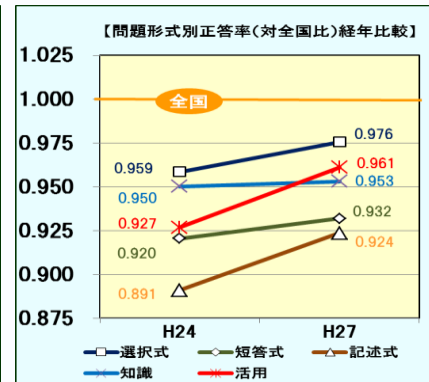
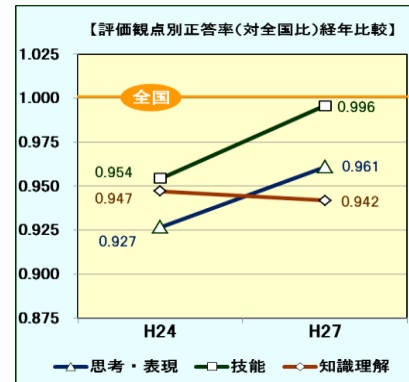
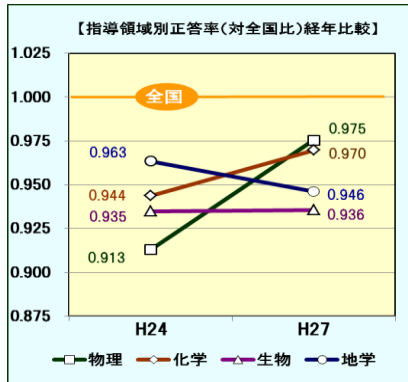
平成27年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況を少しずつ下回りながら同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「地学領域」「記述式」で低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H27は悉皆調査、H24は抽出調査)

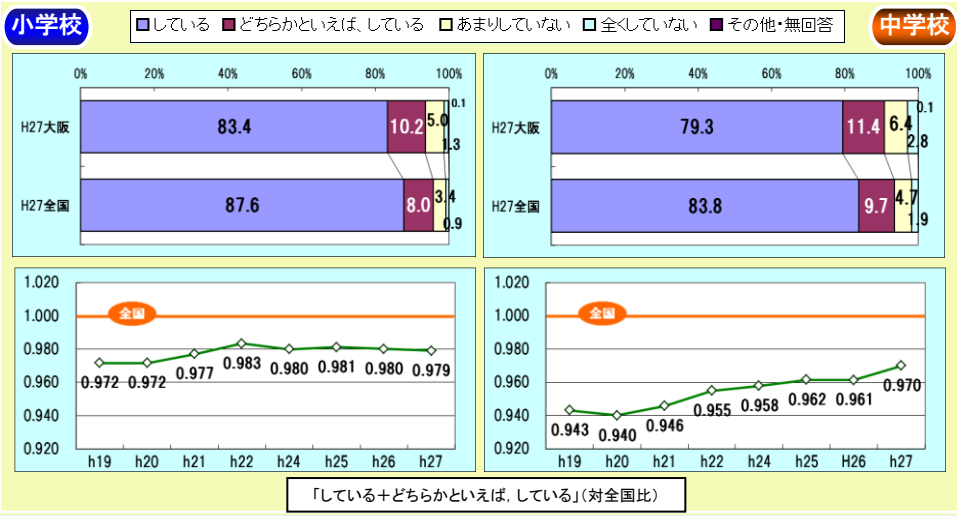
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.1

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 朝ごはん

Q: 朝食を毎日食べていますか?

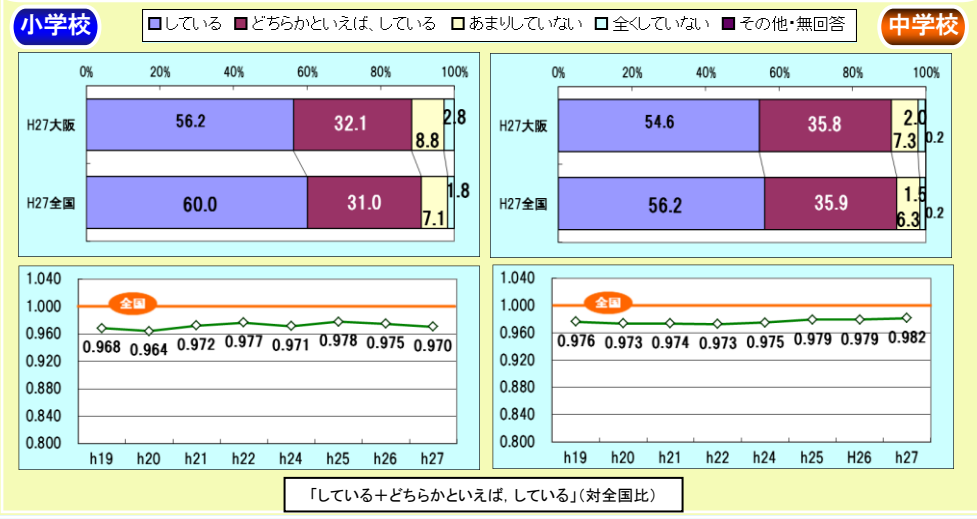
・小・中学校ともに、「朝食を毎日食べている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている



2 起床時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか?

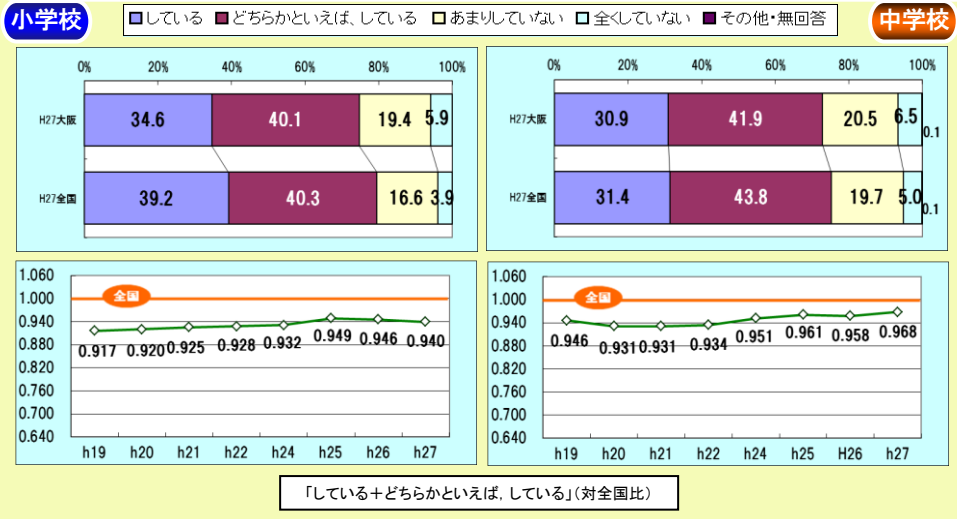
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている



3 就寝時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか?

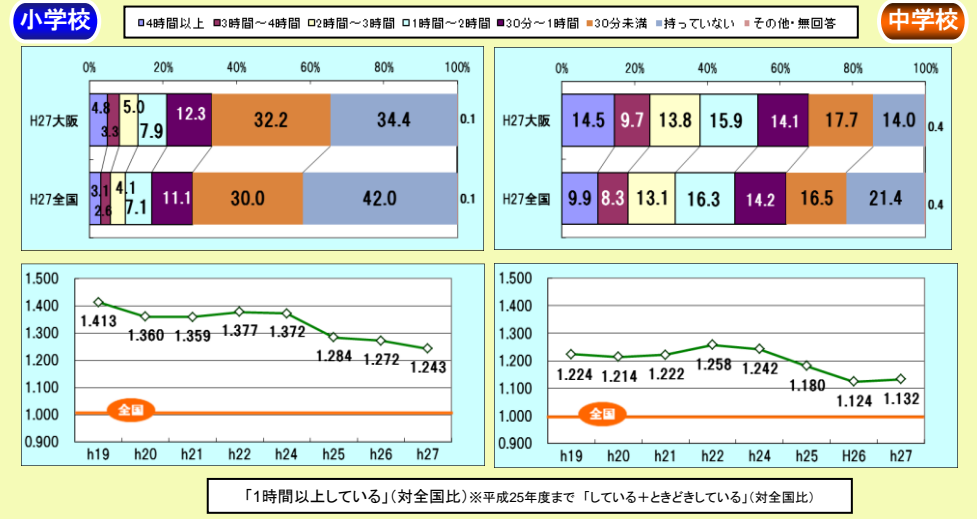
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている



4 携帯電話やスマートフォンの使用

Q: 普段(月～金曜日)、どれくらい携帯電話などで通話やメール等を行いますか?

・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間は、小・中学校ともに全国の状況よりも長い傾向にある ※ 質問項目の文言が平成26年度から変更

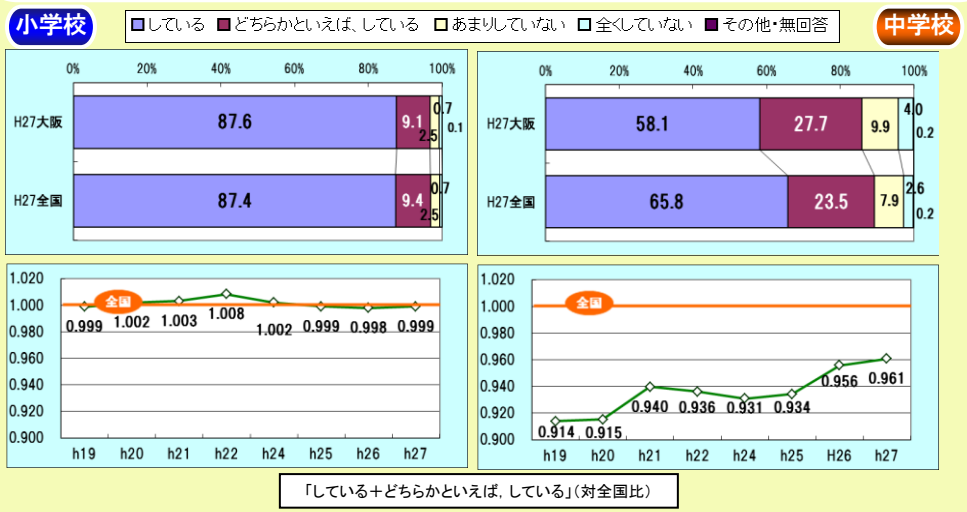


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 学校の宿題

Q: 家で学校の宿題をしていますか?

・家で学校の宿題をしている割合は、中学校において全国
の状況を下回っている

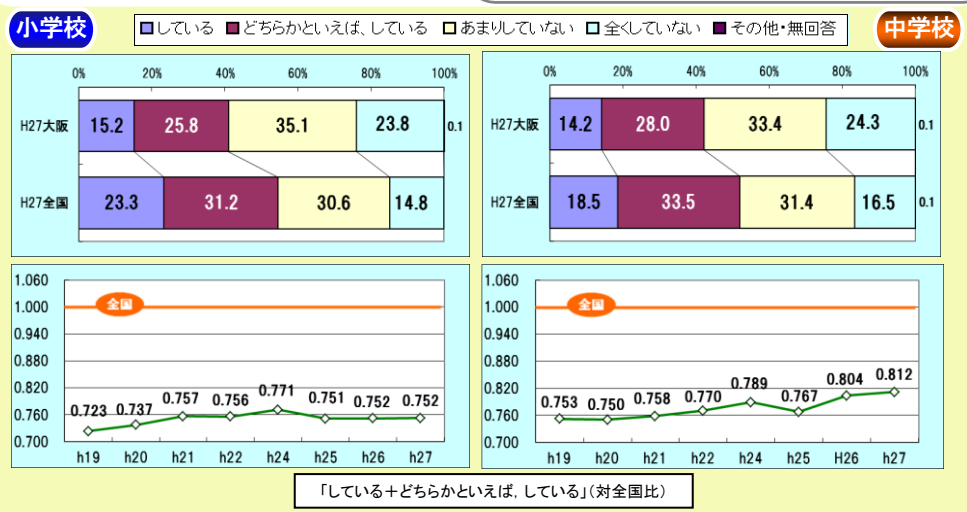


「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

6 授業の復習

Q: 家で学校の授業の復習をしていますか?

・家で学校の授業の復習をしている児童・生徒の割合は、
小・中学校ともに全国の状況を下回っている

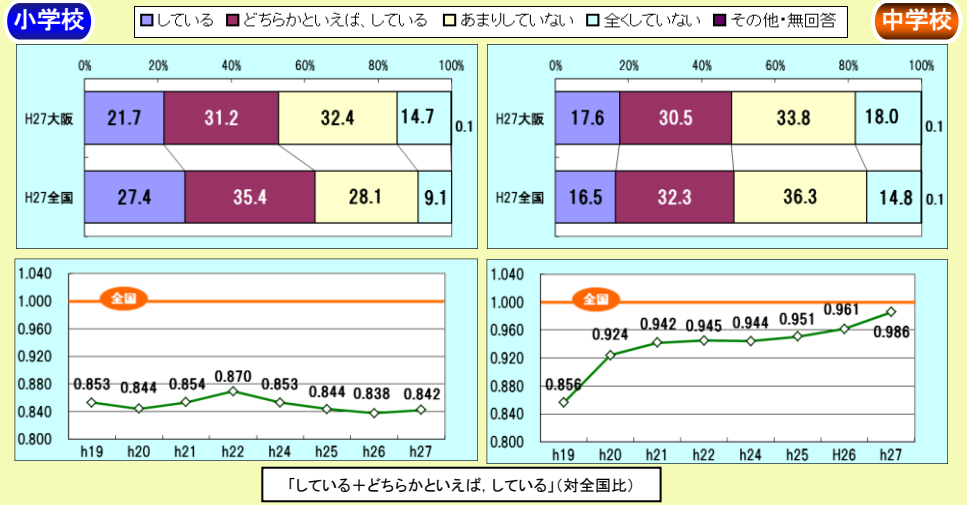


「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

7 自主的・計画的な家庭学習

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか?

・「自主的・計画的に家庭学習に取り組んでいる」児童・生徒
の割合は、全国の状況を下回っているが、中学校の対全国比
は上昇する傾向にある

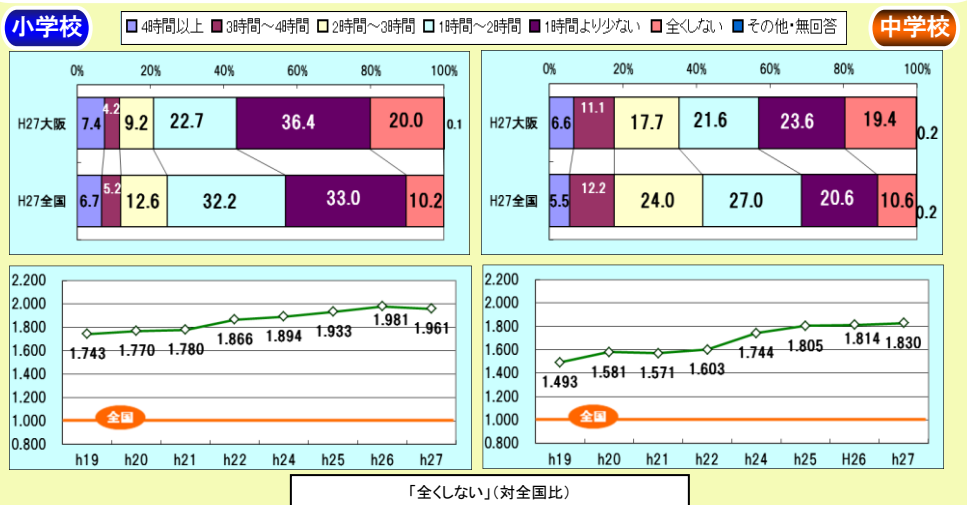


「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

8 休日の家庭学習

Q: 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あ
たりどれくらいの時間、勉強をしますか?

・「休日に家庭学習を全くしない」児童・生徒の割合は、全国
の状況を上回っている



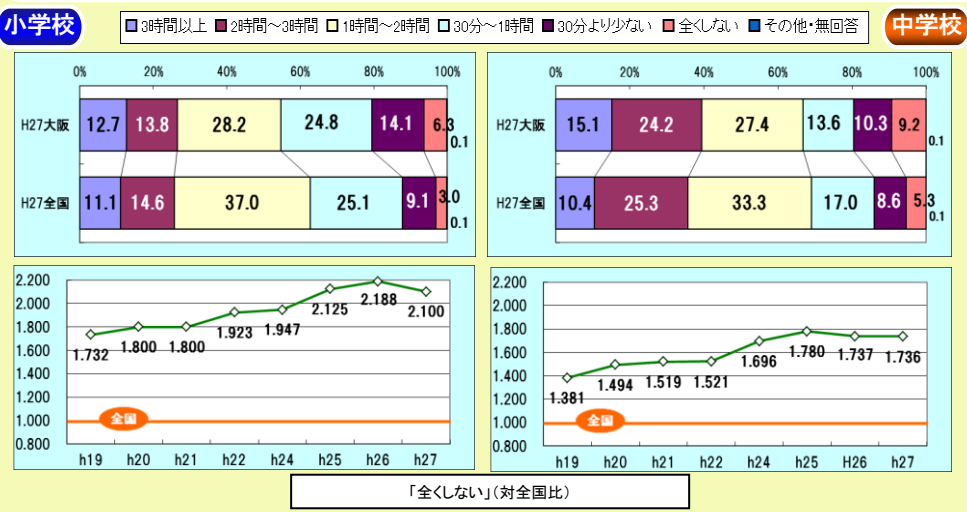
「全くしない」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 1日あたりの勉強時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか?

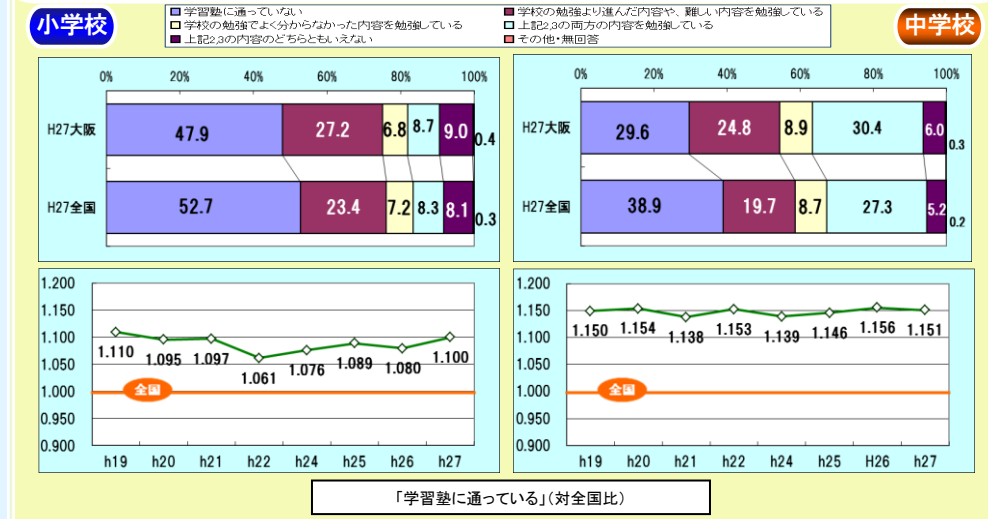
・「普段、家庭学習に2時間以上取り組んでいる」児童・生徒の割合と、「全く取り組まない」児童・生徒の割合がともに全国の状況を上回っている



10 学習塾等での勉強

Q: 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか?

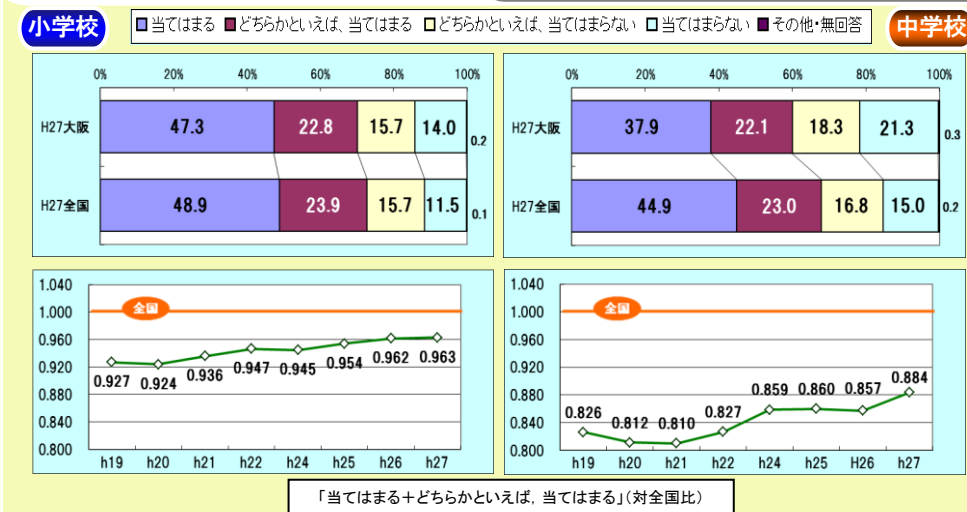
・小・中学校ともに、通塾率は全国の状況を上回っている



11 読書の好き嫌い

Q: 読書は好きですか?

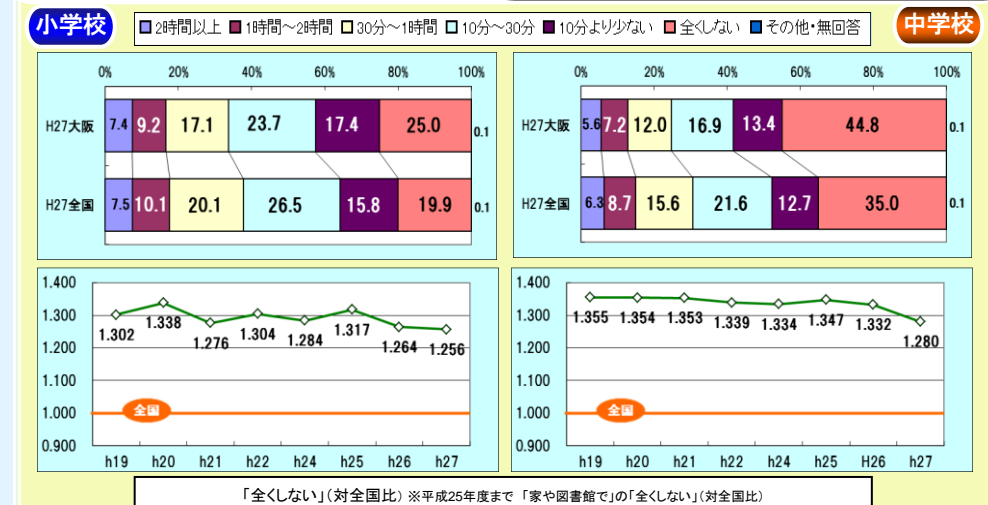
・読書の好きな児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、小・中学校とも対全国比は上昇する傾向にある



12 読書の時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、どれくらいの時間、読書しますか?

・「普段、学校の授業時間以外に読書を全くしない」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回っている
 ※ 質問項目の文言が平成26年度から変更



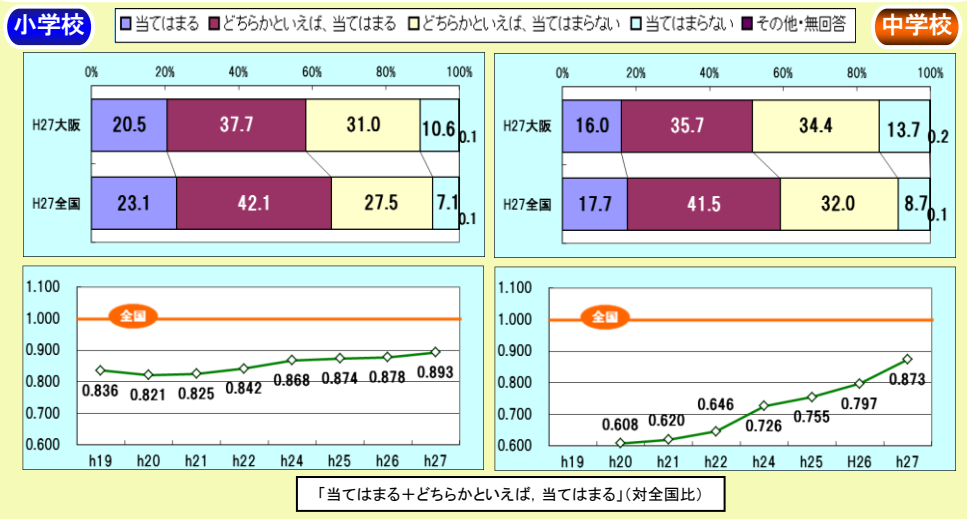
「全くしない」(対全国比) ※平成25年度まで「家や図書館での」全くしない(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値（対全国比）は、大阪府/全国で算出した値です。

13 国語の授業について

・国語の授業で、「自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した割合は、小・中学校ともに全国を下回っている

Q：国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか？

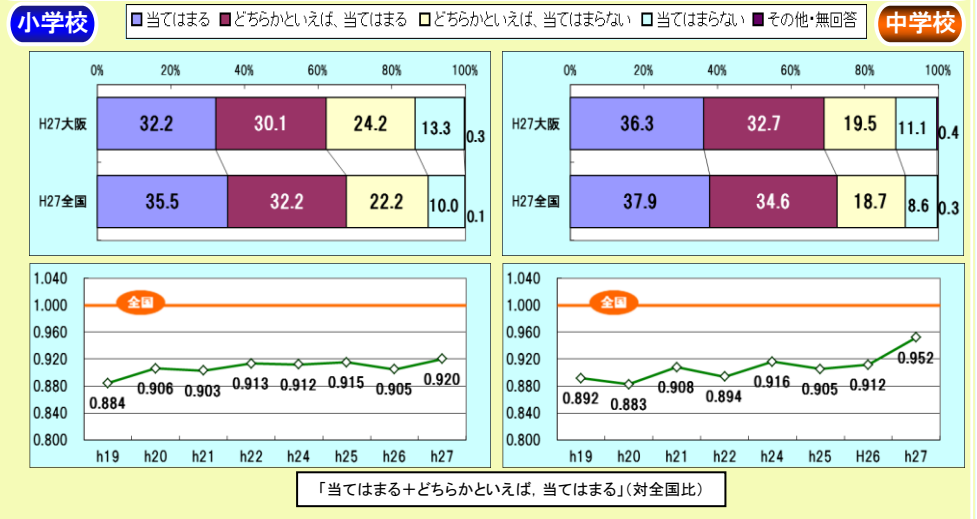


14 算数・数学の授業について

・算数・数学の学習内容を、普段の生活や将来のことに結び付けて意識付けている児童・生徒の割合は、全国を下げている

Q：算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか？（小学校）

Q：数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？（中学校）

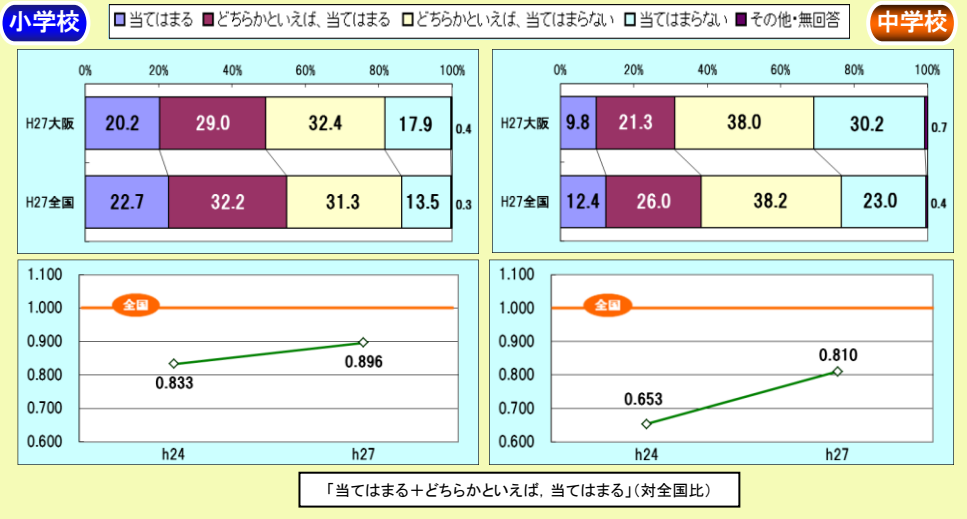


15 理科の授業について

・「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」と回答した割合は、小・中学校ともに全国を下回っている

Q：理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしていますか？（小学校）

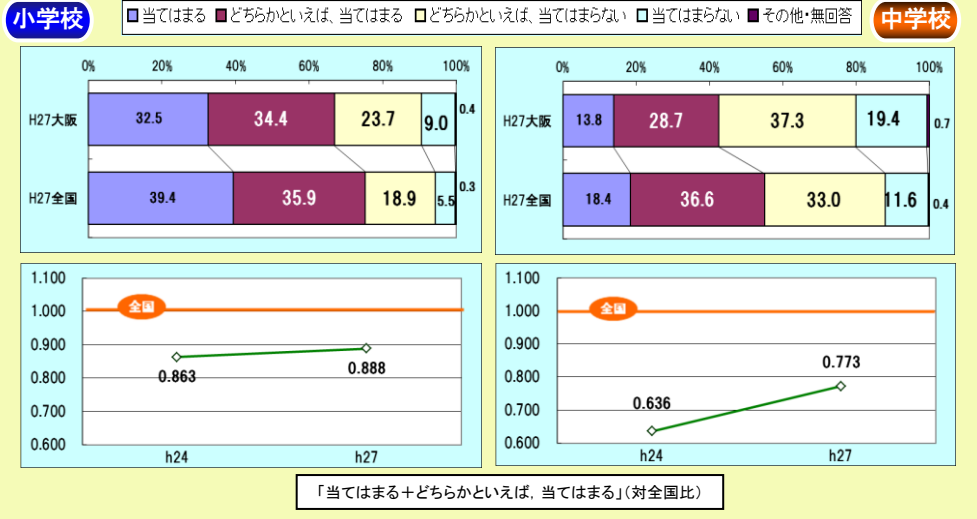
Q：理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり、発表したりしていますか？（中学校）



16 理科の授業について

・「理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答した割合は、小・中学校ともに全国を下回っている

Q：理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか？



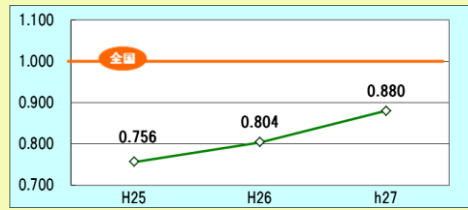
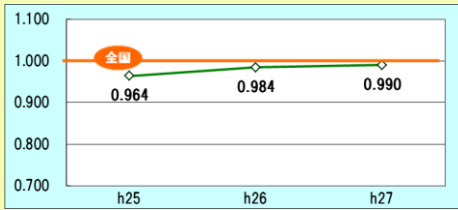
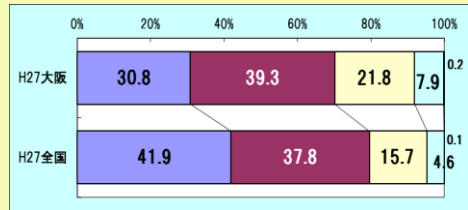
◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

17 目標の提示

Q: 普段の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか?

・小・中学校ともに、授業の中で「目標が示されている」と捉えている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている

小学校 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない その他・無回答 中学校 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない その他・無回答



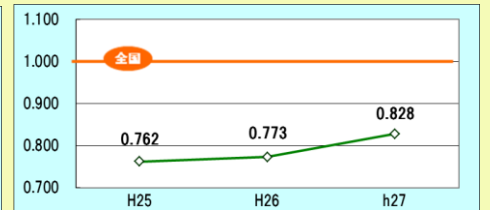
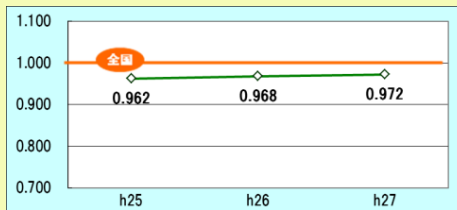
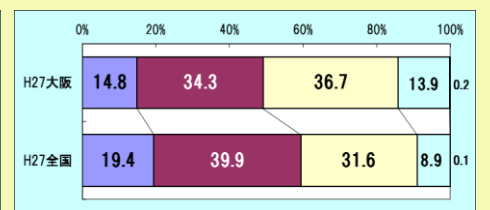
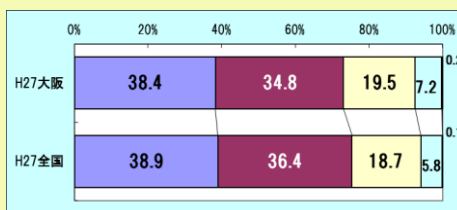
「当てはまる+どちらかといえば、当てはまる」(対全国比)

18 振り返る活動

Q: 普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか?

・小・中学校ともに、授業の中で「振り返る活動が行われている」と捉えている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている

小学校 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない その他・無回答 中学校 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない その他・無回答



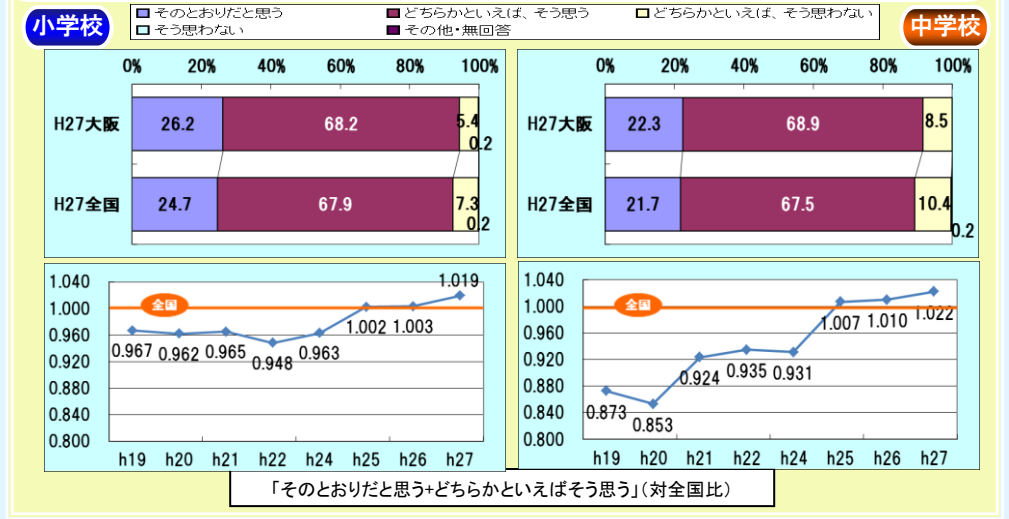
「当てはまる+どちらかといえば、当てはまる」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 学習への熱意

Q: 熱意を持って勉強していると思いますか?

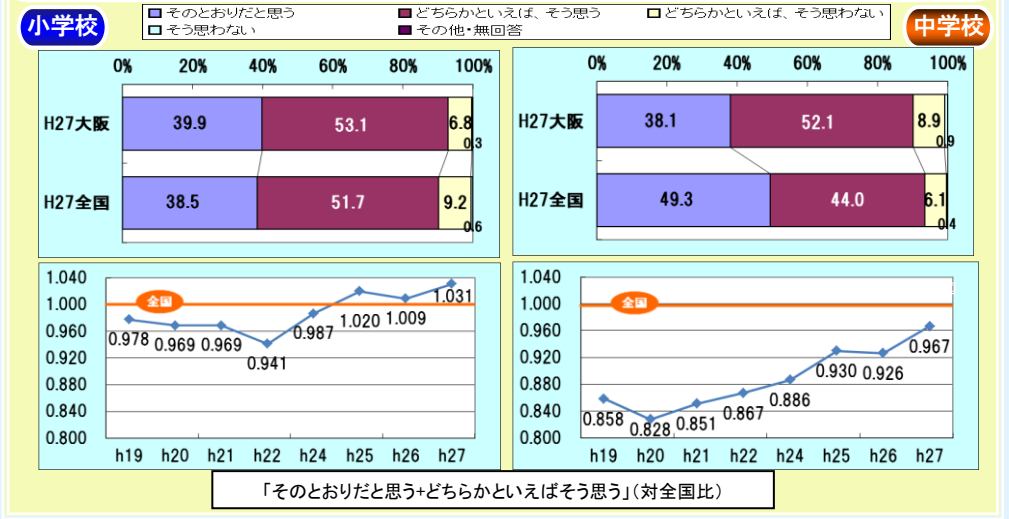
・「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回っている



2 授業中の落ち着き

Q: 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか?

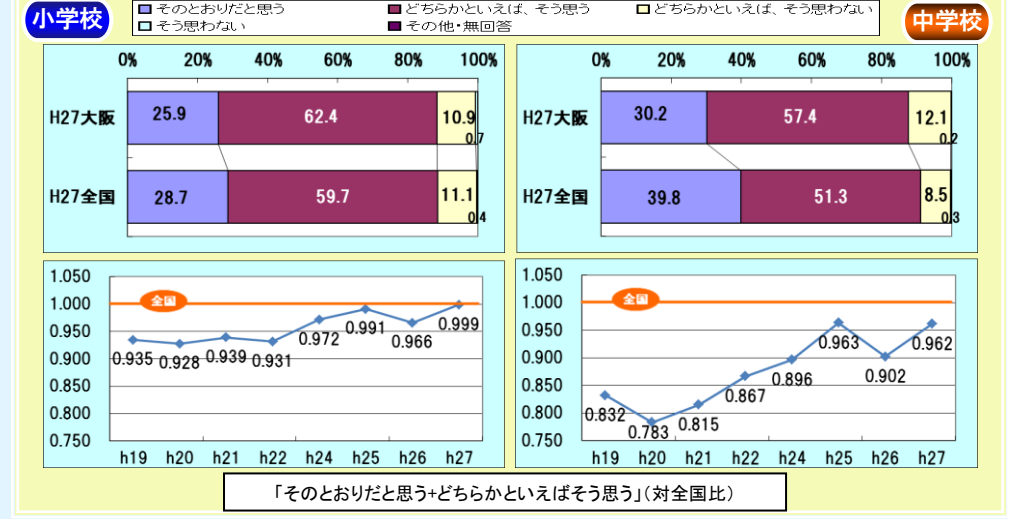
・「授業中の私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は、小学校では全国を上回っているが、中学校では下回っている。



3 礼儀正しさ

Q: 児童・生徒は礼儀正しいと思いますか?

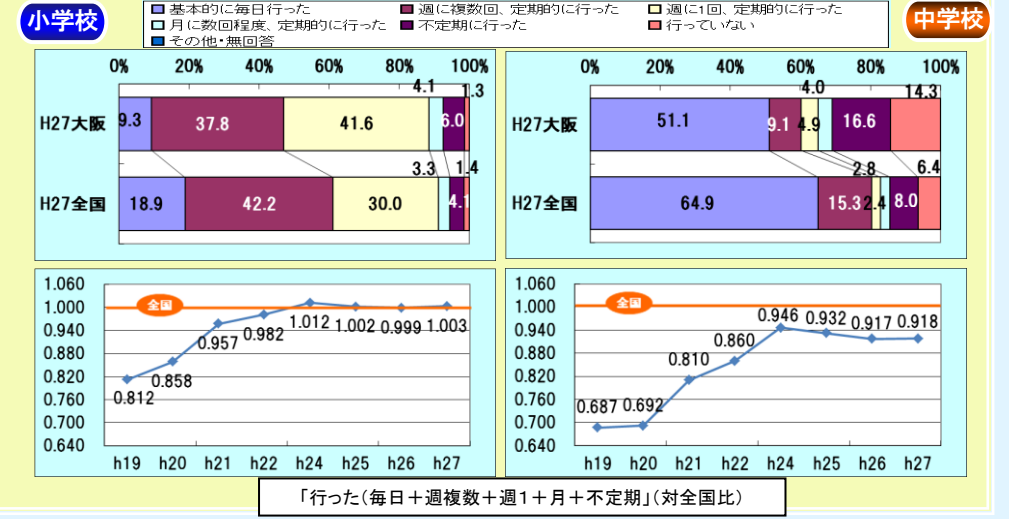
・「児童・生徒は礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、小学校は全国との状況とほぼ変わりないが、中学校では全国を下回っている



4 朝の読書

Q: 一斉読書の時間を設けていますか?

・一斉読書に取り組んでいない学校の割合は、小学校は全国との状況とほぼ変わりないが、中学校では全国を上回っている

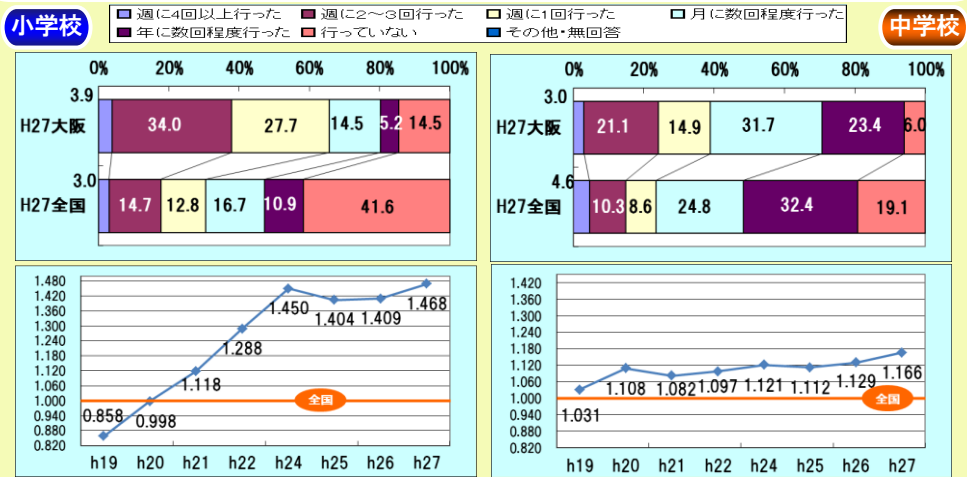


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 放課後の活用

・放課後の学習サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている
 ・特に小学校においては、大きく上回っている

Q: 補充的な学習サポートを実施していますか?

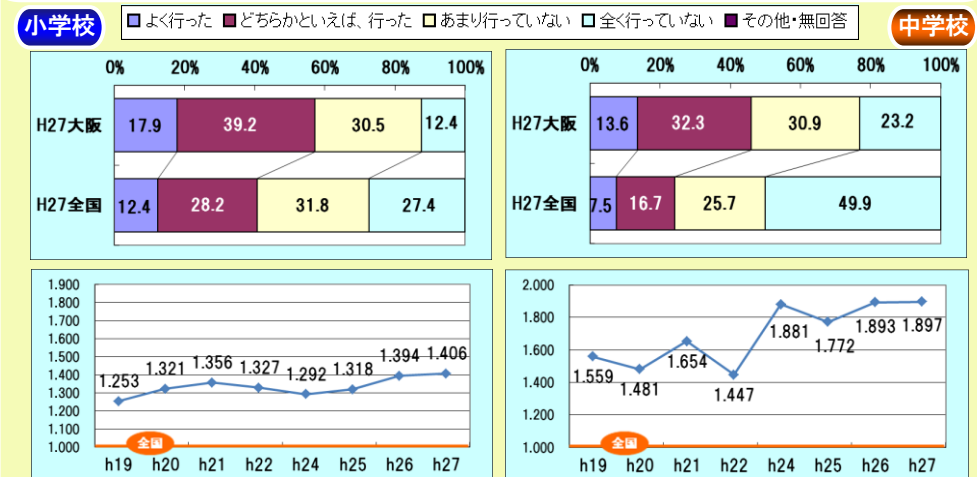


「行った」の合計(対全国比)

6 授業サポート

・ボランティア等による授業サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を大きく上回っている

Q: ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか?

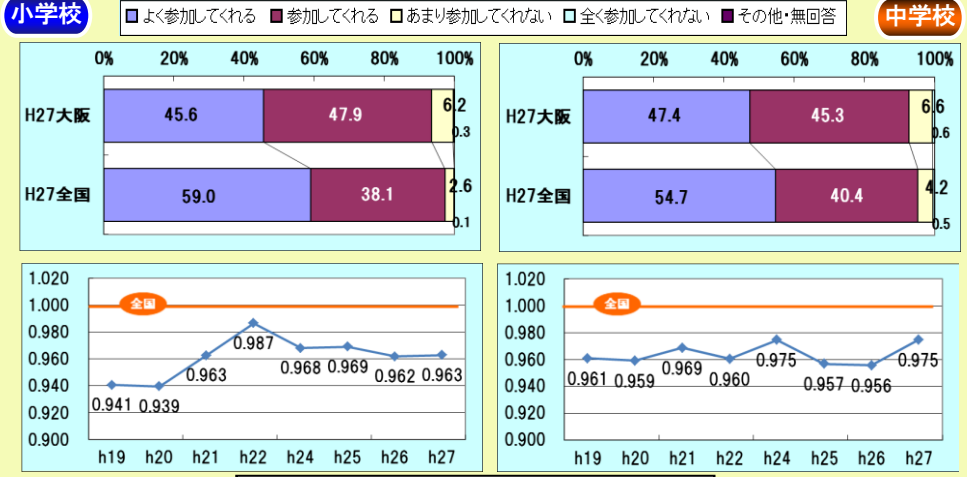


「よく行った+どちらかといえば、行った」(対全国比)

7 PTAや地域の人参加

・PTAや地域の人による学校が行う教育活動への参加状況は全国の状況を下回っている

Q: 学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか?

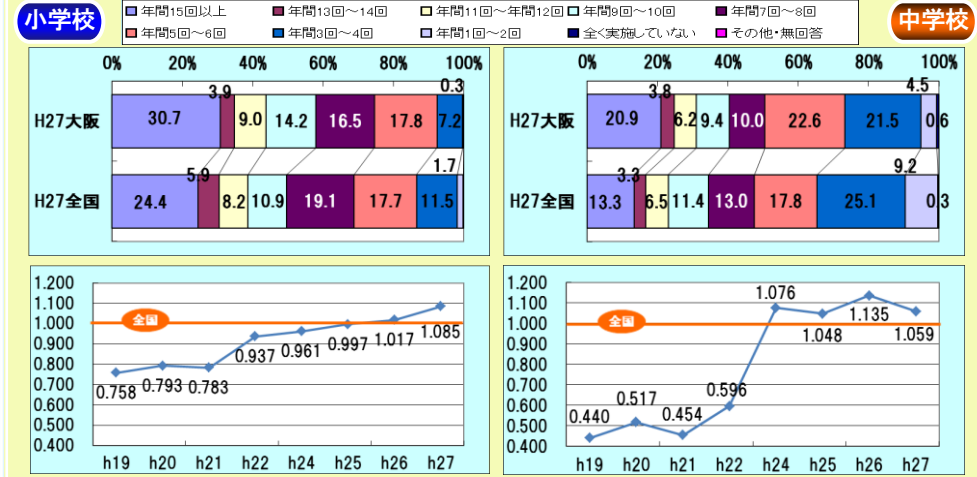


「よく参加してくれる+参加してくれる」(対全国比)

8 校内研修

・授業研究を伴う校内研修の実施回数が7回以上の割合が、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

Q: 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか?



「7回以上実施している」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 就学援助

Q: 就学援助を受けている児童・生徒の割合は?

・小・中学校ともに、就学援助を受けている児童・生徒の在籍率の高い学校の割合が、全国の状況を大きく上回っている

